

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【公開番号】特開2002-201012(P2002-201012A)

【公開日】平成14年7月16日(2002.7.16)

【出願番号】特願2001-301443(P2001-301443)

【国際特許分類】

C 01 B	25/00	(2006.01)
C 09 K	21/04	(2006.01)
B 01 J	13/14	(2006.01)

【F I】

C 01 B	25/00	A
C 09 K	21/04	
B 01 J	13/02	B

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月26日(2008.9.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項15

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項15】 順に

a) 水溶性銀化合物を攪拌して(未処理の)赤燐の水性懸濁物中に混入攪拌しそしてpH7に調整し;

b) 水溶性金属化合物をこの懸濁物中に混入攪拌し、pH値を4~9に調整しそして40~80で0.5~3時間攪拌し続け;

c) 次にエポキシ樹脂およびエポキシ樹脂硬化剤を含有する水性エマルジョンを添加しそして更に40~80で0.5~3時間攪拌し続け;

d) 鈍化剤として働く水乳化性有機化合物の水性エマルジョンを添加しそして5~9のpH値に調節しそして20~90で0.5~3時間攪拌し続けそしてe)次に生成物を濾過しそしてそれを80~150の温度で乾燥する

各段階を行なうことを特徴とする、安定化赤燐粉末の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

本発明は、順に

a) 水溶性銀化合物を攪拌して(未処理の)赤燐の水性懸濁物中に混入攪拌しそしてpH7に調整し;

b) 水溶性金属化合物をこの懸濁物中に混入攪拌し、pH値を4~9に調整しそして40~80で0.5~3時間攪拌し続け;

c) 次にエポキシ樹脂およびエポキシ樹脂硬化剤を含有する水性エマルジョンを添加しそして更に40~80で0.5~3時間攪拌し続け;

d) 鈍化剤として働く水乳化性有機化合物の水性エマルジョンを添加しそして5~9のpH値に調節しそして20~90で0.5~3時間攪拌し続けそしてe)次に生成物を濾過しそしてそれを80~150の温度で乾燥する

各段階を含むことを特徴とする、安定化赤磷粉末の製造方法にも関する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0071

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0071】

表1：例1～11の赤磷粉末の性質

例	安定剤	ホスフィン 生成量 mg PH ₃ / (g · 日)	酸可溶性リン 化合物 mg P / (g · 日)
1	0.1% Ag	0.87	34.3
2	0.2% Ag	0.02	35.6
3	0.3% Ag	0.02	37.6
4	0.2% Ag, 2% SnOH [*] H ₂ O	0.02	4.8
5	0.2% Ag, 2% Mg(OH) ₂	< 0.01	33.5
6	0.2% Ag, 2% Al(OH) ₃	0.90	16.0
7	0.2% Ag, 2% SnOH [*] H ₂ O 8%エポキシ樹脂	< 0.01	1.2
8	0.2% Ag, 2% SnOH [*] H ₂ O 8%メラミン樹脂	< 0.01	0.1
9 比較例	2% SnOH [*] H ₂ O	0.80	5.2
10 比較例	8%メラミン樹脂	0.06	3.5
11 比較	2% SnOH [*] H ₂ O 8%メラミン樹脂	0.02	0.2

* 加熱および加湿下で貯蔵後(80%および100%の相対湿度)